

家庭数配布

令和元年 10月30日(水) 第10号



いぼり

北九州市立井堀小学校
〒803-0835
小倉北区井堀三丁目15番1号
Tel.561-5276
文責：校長 手島 寿則

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語	<ul style="list-style-type: none">5つのうち4つの領域で、全国平均正答率を上回っている。特に読むこと・書くことの領域では、全国平均正答率を大きく上回っている。記述式の問題において、全国平均を大きく上回っており、自分の考えを適切に説明することができている。ひらがなを漢字に書きなおす問題で、誤答や無回答が多く、課題が見られる。
算数	<ul style="list-style-type: none">「数学的思考力」「技能」「知識・理解」のどの領域でも、全国平均正答率と同程度である。記述式の問題について、正答率が高く、論理的に解答することができている。基本的な計算問題にミスが多い。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none">国語の勉強を「好きである」と回答した割合が、全国平均を大きく上回っている。また国語の授業について「自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝えるように理由を示したりするなど、話や文章の組み立てを工夫している」や「学習したことを普段の生活の中で活用しようとしている」に肯定的に回答した割合も高く、主体的に授業に参加していることがわかる。総合的な学習の時間などで、自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表する学習活動において、コンピュータなどのICTを積極的に活用することができている。「道徳の授業では、自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」に肯定的に回答した割合が高い。「新聞を読んでいますか」について肯定的な回答をした割合が、全国平均と比べて大きく下回っている。現在はNIEの取組の一貫として、校内に新聞コーナーを設けたり、学習に関連する話題を掲示したりすることで、多くの児童が新聞を読むようになってきている。「自分にはよいところがある」や「将来の夢や目標を持っている」について肯定的に回答した割合が、全国平均と比べてやや低い。家庭での学習では「30分より少ない」と回答した割合が高く、現状では宿題以外の学習について取り組むことができていない児童が多い。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 主体的・対話的で深い学びの学習になるよう学校全体で授業研修を行い、授業改善に努めていく。
- 学力体力向上推進教員のモデル授業参観や指導助言から、さらに主体的・対話的で深い学びとなるように全校で日々の授業改善の取組を進める。
- 学習の基礎的な内容をより一層定着させるために、全校で朝の学習の時間(8:40~8:50)に集中して基礎基本定着問題に取り組んでいる。3~6年生は、学力定着サポートシステムを活用し、短時間で集中して問題に取り組むようにしている。これにより児童一人一人の苦手な課題を解決していく。
- 担任外の教員が中心となって、学期末にドリルが終わっていない児童に対して放課後指導をしたり、ひまわり学習塾に指導員とともに指導にかかわったりして、補充学習を充実させていく。
- 校内に新聞コーナーを設けたり、学習に関連する話題を掲示したりすることで、多くの児童が継続的に新聞に触れることが増えてきているので、今後とも継続して取り組んでいく。また、社会科や理科、総合的な学習の時間などでの調べ学習で新聞を活用したり、国内や地域のニュースにより興味関心を持ったりするように時事ニュースを教室に掲示する。
- 学校行事や日々の学習活動の中で、自分のよさや自己有用感を感じることができるよう、褒めたり認めたりする学校・学級の雰囲気づくりに努める。
- 「北九州子どもつながりプログラム(北九州市対人スキルアッププログラム)」を全学級で活用し、自分のよいところを実感させる。また将来の夢や目標を持つことができるように、体験的な活動を積極的に取り入れる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 学校だより、学年学級通信、保健だより等を通して、基本的な生活習慣の定着についての啓発をより一層進めていく。
- 板櫃中学校区の「十人十色~一人一人を大切に」のスローガンのもと、「全校あいさつ運動」や「ぼかぼかレター(いいところ見つけ)の掲示」を、今後とも継続して行なっていく。
- 家庭学習の時間は「学年×10分+10分」を目標とする。学習時間を増やすだけでなく、個人の課題克服に向けた内容にするために、学級や学年で手本となる家庭学習の仕方を掲示する。また、家庭学習の習慣の定着については、保護者会や通信等の機会に継続的に保護者に呼び掛ける。